

「自ら課題を見付け、友達と協働して解決していこうとする児童の育成」

—めあてを達成するための適切な話型を活用して授業改善を図る—

専科分科会

1 研究主題にせまるために

対話型鑑賞は、一方的に解説を聞くのではなく、自分の感じたことや考えたことを言葉にし、他者と共有することで、新たな発見や視点を得ることを目的としている。また、自分の感じたことを言葉にし、他者に受け入れられることで、自己肯定感を高めることができる。ファシリテータを中心に友達の意見を肯定的に聞く環境設定をすることで、安心して対話から学びを深め合い、友達と協働する楽しさを実感できる。

また、この題材を通して、友達の意見を肯定的に受け入れる関係性を体感し、その心地よさを日常生活にも継続できるきっかけとしたい。さらには、「ピカソの本物の作品を見てみたい」とインターネットや本などで情報を集めたり、所蔵されているアメリカの美術館に行ったりするために英語に触れようとするなど他教科への広がりを持たせたい。このように、対話型鑑賞をすることで、自らの興味や関心を次の様々な課題につなげられると考えた。

2 目指す児童像

○友達に分かりやすく伝えたり、友達の考えを受け止めたりして、学びを深め合う子

○学んだことを日常生活や他教科に活用しようとする子

3 授業の視点及び手立て

視点1 主体的・対話的で深い学びを実現するための言語環境の整備・言語活動の充実

○ルールやヒントカードに沿って、自分の感じたことを話したり友達の意見を肯定的に聞いたりすることができたか。

(そのための手立て)

- ・話し合いをサポートするためのルールを設定する。
- ・ファシリテータを中心として肯定的に話し合いを進めるためのヒントカードを用意する。

視点2 協働的な学びの充実に向けた学習活動の工夫

○言葉から色・色から言葉を連想する活動は、名画を鑑賞する自分の見方・感じ方を広げることに繋がっていたか。

(そのための手立て)

- ・同じ名画を線画にして、色の組み合わせを考えさせる。
- ・言葉（キーワード）をカードにし、他の班には内緒にしておくことで想像力をかきたてる。

視点3 情報機器の効果的な利活用

○ICTの活用により、自分の学びを深めたり、見方・感じ方を広げたりすることができたか。

(そのための手立て)

- ・ペイントアプリ（ibisPaintX）の塗りつぶし機能を使うことで、色の組み合わせに焦点を当て、主題を表すことができるようにする。
- ・共有ノートを使って、全体で作品を見合うことができるようにする。